

令和6年度大阪市市民活動推進助成事業報告会

ぱふすぺ

障害がある子供もない子供も一緒に遊べる、またそういった子供をもつ親もそうでない子供を持つ親も楽しめる“居場所”作り

NPO法人サードプレイス

代表 中西美穂



NPO法人サードプレイスとは

理念

脳性まひ児（障害児）やその家族が健やかに過ごせる共生社会を目指します

代表プロフィール

ノンフィクションライター。保育士。元週刊誌記者。不妊治療によって双子を出産。次男に障害があることがわかる。自身の経験を活かし、生殖補助医療、妊娠・出産・育児、障害・福祉を中心に取材活動を行う。障害児を持つ親を支援するNPO法人サードプレイスを運営。

代表的な記事



(デイリー新潮/新潮社)



(現代ビジネス/講談社)

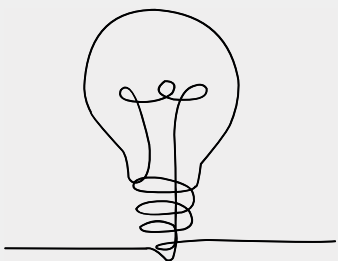


活動目的

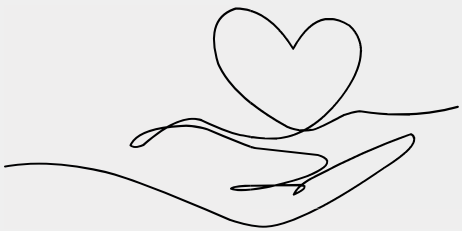
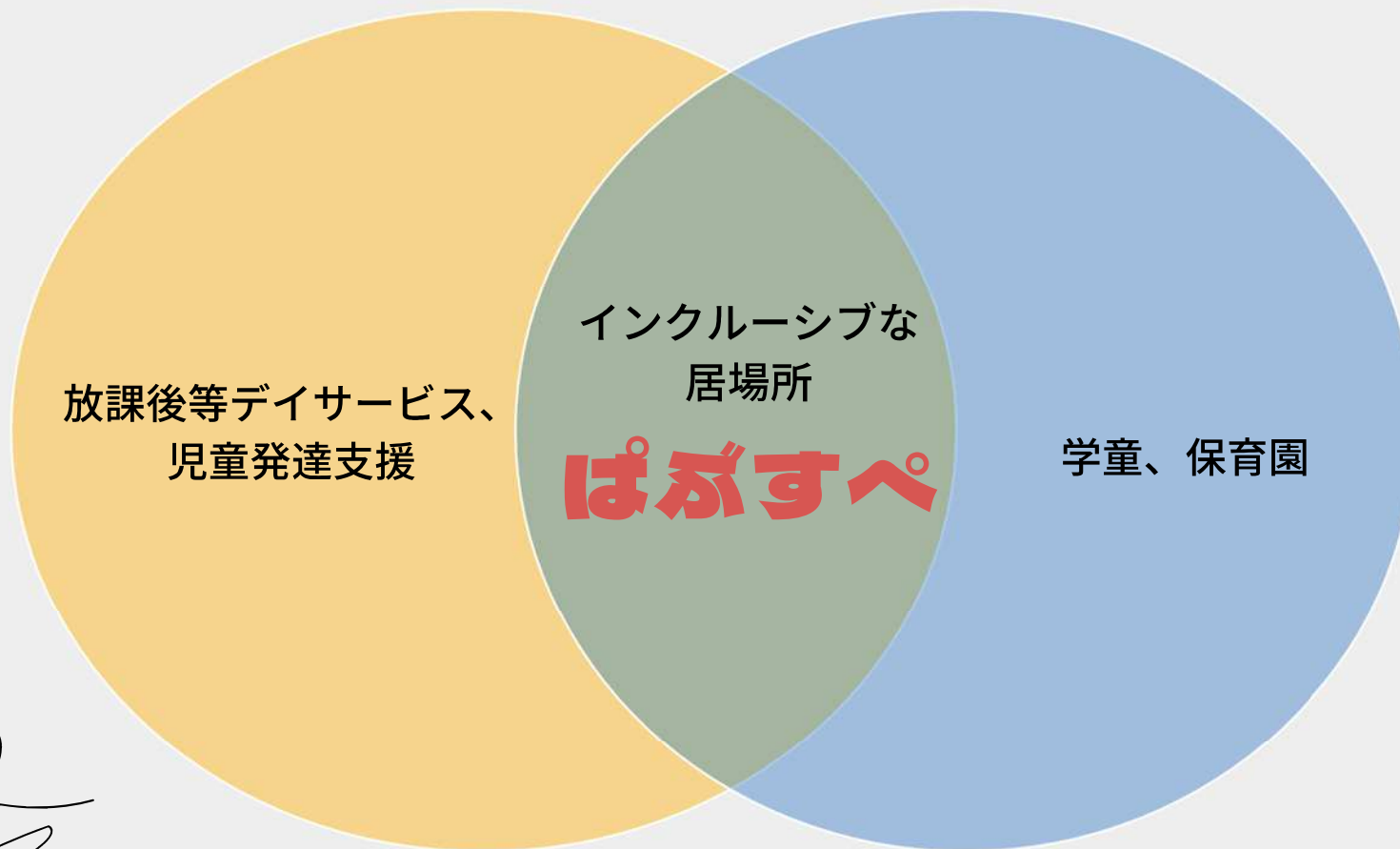
- ・配慮が必要な子どもとそうでない子どもが同じ空間にいて、お互いが理解し、一緒に遊ぶことで障害などの理解が進む
- ・親（特に母親）の居場所を兼ねることで、親の理解も進み、学校や放課後の子供のコミュニティだけではなく、家庭内でのインクルーシブ教育もを推進
- ・親の居場所は、育児に関する情報交換を行い、育児軽減のための支援にもつながる。

親と子ども同時にキャッチアップできる場所に

インクルーシブ教育の推進



活動目的



活動内容

活動場所

第二、第四水曜 14時半～17時半

活動場所

大阪市中心区 中大江校下センター

一日の流れ

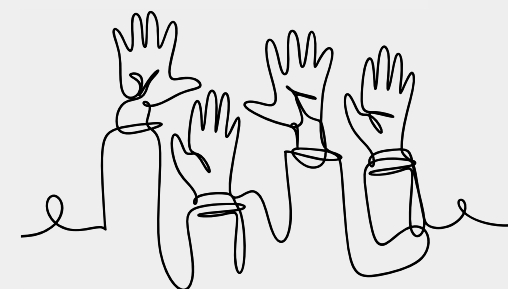
14時半～15時 子ども達来る。

14時半～15時半 勉強時間

15時半～17時イベント

17時～17時半 自由遊び

17時半～18時 片付け



活動内容



宿題補助

ボランティアの方々と一緒に宿題をやります。



イベント

毎回イベントを開催しています。



自由時間

自由遊びは各々で。宿題するもよし、ブロックで遊ぶもよし、寝転ぶもよし



ボランティアさんたちの声

子ども達に刺激を
もらいました！

久しぶりに子ども達と
触れあって楽しかった
です！



親御さんたちの声

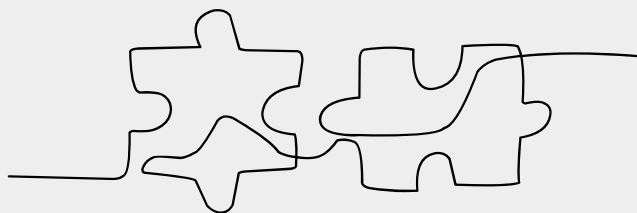
毎回、子ども達も楽し
みにしています！

このエリアにはこういった
場所がなかったので助かっ
てます！



活動成果

開催回数	16回
活動参加者数	562人
ボランティア参加人数	51人



イベント内容

- かがくじっけん
- バルーンアート
- 消しゴムハンコスタンプ
- スライム作り
- コマ、トンボを作ろう
- デジタル遊び
- 救急車体験、救急体験
- キックボクシング など

計画目標と現状

計画目標

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

第一回開催、目標
人数5人～10人

月4回開催目標、
約20人目標

居場所施設を探す

4月施設開設
を目指す

現状

月2回、利用者数1回約40人

居場所施設を探す

告知、周知、
人員確保など

利用者数1回50人、開催数月8回、人員配置4人＋ボランティア支援、寄付支援10企業、中央区でモデルとなる取り組みにする



月2回開催、参加人数約20人、人員配置4人（ボランティア含む）、常設化決定

活動結果



子ども達に知られる存在となり、楽しみにしてくれる子どもも増加した

関わってくださるお母さん仲間、ボランティアさんが徐々に増加し、企業・行政の方々も見学にきてくれるように

母親たちの居場所、大人たちの居場所になりつつある

イベントの充実

大阪市社協（地域子ども支援ネットワーク）、中央区社協（中央区子ども居場所連絡会）との連携

課題

- ・ 常設場所を確保したが、周知がまた最初からになってしまった。その周知をしていく必要性が求められる→イベントの開催、チラシ再配布、大阪市と連携して告知を進める
- ・ “インクルーシブ”な居場所支援が課題となっている。インクルーシブと謳っており、大きな意味のインクルーシブにはなっているが、多様性、他学年との交流など、本来の目的の障害という部分ではハードルが高く、どのように解消していくべきかがこれからの課題となる。
→デイとの融合で解消を目指す
- ・ 人員不足をどう解消するか。ボランティアのかたは来てくださるようになりましたが、責任をもって主でやってくださる方が予想より見つからず、人不足を解消する必要性がある。
→大学と連携する予定
- ・ 地域コミュニティとの連携
→北大江地域活動協議会には参加、中大江は検討中

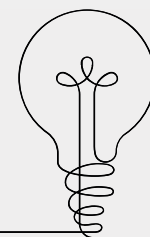
これからのぱぶすへの目指すところ

来年度の目標

常設の場所が決定し、今年度はこちらでの周知を目指します。中大江エリア問わず、地域を拡大し、対象を広げる予定です。チラシも全区に巻く予定です。

本当の意味の“インクルーシブ”の場を提供するための新制度に向けて

- ・ 国も児童発達支援に受給者証を発給された子供以外の利用を推進、保育園と児童発達支援の統合＝国もインクルーシブな場所を作る方向で進んでいる。
- ・ 放課後デイサービス＋民間学童のセットを当会がモデル事業として進め、国に提言し、制度として設計を目標とする。
- ・ 児童育成支援拠点事業（大阪市）との連携



これからのぱぶすへの目指すところ

本当の意味の“インクルーシブ”教育を目指して、
そして、思いやりや自己解決能力を伸ばせる場所へ

4月からはじめた居場所支援「ぱぶすぺ」ですが、最初はどうなることかと思いましたが、多くのお子さんが来てくれる場所、楽しみになる場所に成長することができました。お互いが理解できる場所、思いやれる場所、そして、生きていく上で色んな人のこと、社会のことを“考えられる”大人になってほしいため、これからも多様性、インクルーシブな場所として発展していきたいと思います。

